

5438 <sup>げーぶる</sup> 迎舌の日本再発見の旅：中山道 69次とは

.....

中山道六十九次は、江戸時代に栄えた**五街道の一つ**で、宿場の総称。

中山道は、江戸・日本橋と、京・三条大橋の間を結ぶ主要街道2路のうちの、

**山地側の1路**である。もう1路である**東海道**とは、

江戸側は同じ日本橋から発するが、山手と海沿いに分かれて西進し、

近江国に入って**草津宿で合流**。そこからは京までの区間を共有。

江戸・日本橋から発する**甲州街道**とは、その終点である**下諏訪宿**で合流。

中山道六十九次は、名所絵（浮世絵風景画）『木曾街道 69次』

出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

**中山道**

中山道は江戸幕府が管轄する基幹道路であった五街道の一つであり、東海道と共に江戸と京都・大阪を結ぶ最も重要な道路で、その距離は江戸日本橋から京都三条大橋まで百三十五里二十四町八間（約五百三十二km）でした。

中山道は中部山岳地帯を通り、難所が多いが、川留めになる河川も少なく、渡海の難もないため、姫宮の通行のほとんどが中山道を利用していました。

この道は庶民が利用する生活の道というよりも、兵力の移動を円滑にするためや、西国諸大名を支配するための政治的・軍事的な道で、また容易に江戸に侵入出来ないようにわざと地形的に通行の困難なルートをとっているともいわれています。



